

## 私と憲法九条

金沢大学学生

大谷 俊二

4月29日、私たちは「憲法改悪反対！ イラク第6次出兵阻止！」を掲げ、片町・香林坊で反戦ウォークをやってきました。一年生もマイクを握りしめて市民にアピールしました。そして学内では、改憲反対の声を広めるために教室を回って「憲法改悪反対 怒りのファックス」を集めてきたのです。

しかし前期授業開始直後は、みんな「反対」とはならず、なかなか難しかったです。「よく分からない」という人が圧倒的に多い。また「自衛隊を認めるだけだからかまわない」「メリットもある」という人もいました。およそ誰が・なんのためにいま憲法を変えようとしているのかということと無縁に頭を回しているようでした。

そこでチラシを作成。「『憲法を変えても何も変わらないのでは』というあなた！ イラク攻撃みたいなアメリカの侵略戦争に参戦することになるんだよ」などなど。このチラシを毎日昼休みに配布して、政府・自民党がなぜ・いま「新憲法制定」に突きすすんでいるのかを明らかにしながら、一人一人と論議してきました。

しかし「イラク戦争に参戦」と言っても「フセインの圧政から解放するためでしょ」というのです。とうに崩れたブッシュの口実を多くの一年生が信じていることが分かってきました。そこで、ファルージャ攻撃の写真などを見せると「えっ！ 米軍ってイラクでこんなにひどいことをやってるんですか！」と驚き、ようやく憲法が変えられたらこういう戦争に自衛隊が参戦するというイメージも湧いてきたようです。抗議ファックスも集まりました。イラク反戦の取り組みと結びつけて改憲反対の闘いをつくりだすことが大切だと思いました。

また今年の一年生の特徴は、ブッシュ政権に対する否定感がかなり弱いということです。ブッシュ帝国がいま完全に世界から孤立し、崩壊の急坂を転がり落ちていること、そしていまこそ歴史の舞台から引きずり下ろすときなのだ、とはっきりさせるべきだと思います。窮地に陥ったブッシュ政権は、「対テロ戦」や中国の軍事的封じ込めを自衛隊が担えるようにするために、憲法9条を破棄することを小泉政権に迫っています。これに付き従っているのが小泉政権です。もうこれ以上、私たちはブッシュ政権の延命に日本政府が手を貸すことを許してはなりません。

もう一つ、問題提起します。4月、小泉政権が「反日デモ」に立ちあがった中国人民を「暴徒」と決めつけ、右翼マスコミを総動員して連日のように「中国の異常な反日教育の実態」などと「反中国」の民族排外主義キャンペーンを煽り立てました。一年生のなかには中国への嫌悪感を露わにする人もいました。

僕はこの反中国・反韓国のキャンペーンを真正面からはね返していく必要があると思います。政府が排外主義を煽るときは、危険です。小泉政権は「自衛のために改憲は必要」

だ、という気運を国民のなかからつくりだそうとしているからです。

小泉政権は2月の防衛協力委員会で、台湾有事の際には日米が共同で対処 = 軍事介入することをうたいあげました。中国・韓国人々は、小泉政権が ブッシュにつきしたがって改憲・安保強化に突きすすんでいることに過去の軍国主義日本の復活を見て取り抗議しているのです。中国・韓国の人々と連帯して、改憲と日米安保の強化に反対していこう。そして米日政府の軍事的挑発に対抗して、核軍事力の増強に対抗をはかる中国政府。このような各国権力者によって高められている戦争的危機を中国・韓国・アメリカの学生や労働者の団結した力で突き破っていくべきだと思います。インターナショナルな立場に立脚した反戦・平和運動を推進していこうではありませんか。